

俺たちもワーカーズ 仲間がいる 働く喜びがある

30年ほど前、生活者目線で地域に必要なものやサービスを作ろうと始まったワーカーズ・コレクティブの担い手は多くが女性でした。近年働き方は大きく変化し、「ワークライフバランス」を求める人々が増えています。また、仕事に生活のためだけではない、やりがいを求める人々も多くなっています。ワーカーズ・コレクティブも男性の参加が増えています。「何のために働くのか…」を追求した結果、ワーカーズ・コレクティブを選んだ男性たちをご紹介します。



4年前に音楽の仕事を中心にしていこうと思いきや会社を退職し、生協の安全性確かな食材を組合員宅に届ける業務を行う「ワーカーズ・コレクティブそら」のメンバーになりました。生活クラブ生協には20年ほど前、娘のアトピーをきっかけに加入していました。

初めは女性ばかりの職場ということもあり戸惑いもありましたが、皆さんの丁寧な指導もあり徐々に仕事に馴染めるようになりました。仕事内容も意外に力仕事が多いことに驚きました。実際に女性がトラックを運転して配達をこなしていることに感心しました。「消費材」の管理や扱いにしても組合員さんの事を第一に考えている仕事ぶりを見て正に協同組合が運営しているのだと強く感じました。

社会一般の食品の安全性や信頼が揺らぐ中、早くからその問題に気付き自主基準を厳しく課しながらブレること無く活動を続ける生活クラブ生協、またその一員として仕事ができることにとってもやりがいを感じています。「ワーカーズ・コレクティブそら」に入ってみて気付いたことは、色々な問題や課題をメンバーで話し合いながら決定している事。これは本当に素晴らしいと思うし、世の中の職場でもこのようであつたら良いと思いました。他の職場にはない新しい働き方を発見できました。

企業組合ワーカーズ・コレクティブそら 高橋学



私が「ワーカーズ・コレクティブつどい」(現：企業組合つどい)の組合員になったのは11年前です。生協の共同購入に関する業務を受託している事業所です。

つどい設立後間もない時期は自分たちで仕事の仕方を色々工夫していました。「ワーカーズ・コレクティブってこういうもの」と肌で感じたように思います。次第に自分も企画運営やリーダー的なポジションに積極的に携わるようになりました。

現在は「帳合」に所属し、機械を使って生活クラブ生協組合員に配布するカタログやチラシ、申込書をセットする作業を行っています。私は専任機長という役職につき、作業の進み具合や機械の調整などを取り仕切る立場にいます。

ワーカーズ・コレクティブは、社会参加のきっかけとして、ハードルが低いものだと思います。メンバーの中には自分の目標ができて辞めた人もいます。そうした人たちを見送るのは寂しくはありますが、ワーカーズ・コレクティブは再生の場となったのだと思います。帳合の業務は体力が必要で男性が仕事に入りやすい土壌ができています。11年が経ち、ともに働いてきた人たちは私よりも年上が多いので、世代交代は意識しています。ベテランと若手の立ち位置や若い世代が継続して加入し、長く居続けられる環境とはを考えながら、この先も一所懸命にやっていきたいと思えます。

企業組合つどいワーカーズ・コレクティブ帳合
小林真人



「ワーカーズ・コレクティブわかば」で働き始めて約5年がたちました。生活クラブ生協の配達をする仕事に就いています。

普段の生活では一般企業とワーカーズ・コレクティブの差を感じることはほとんどありませんが、運営面ではワーカーズ・コレクティブで働いていると意識することが多いです。